

## 研究実施における情報公開 (松戸歯学部単独研究)

研究の名称； 当院での上下顎骨形成術の翌日抜管症例に対する鎮静薬の使用状況の検討 - 2007年4月から2017年9月まで - (承認番号 17 - 022)

研究機関・講座； 日本大学松戸歯学部・歯科麻酔学講座

研究責任者； 助教・鈴木正敏

研究期間；平成30年4月19日～ 令和5年4月18日

### 1. 研究対象者

2007年1月～2017年9月までの間に本付属病院顎顔面外科にて顎変形症と診断され、上下顎骨形成術を受けられた方

### 2. 研究目的・意義

目的：全身麻酔下にて行われた上下顎骨形成術に対する術後気道管理法として、手術終了後、経鼻気管挿管を継続し、術後出血などの危険性が回避されることを確認した後、術翌日に経鼻気管挿管チューブの抜去を行う場合がある。このような症例では、全身麻酔終了後から翌日チューブ抜去までの間、気管チューブ挿入によるストレス軽減を目的とし術後鎮静薬の持続投与が必要となってくる。現在、術後鎮静に用いられる薬剤として、ミダゾラム (MDZ)、プロポフォール (PPF)、デクスメトミジン (DEX) など麻酔・鎮静作用を有する薬剤が投与されているが、その薬物の選択に関して明確な基準はなく、担当麻酔科医の経験や既存の症例報告などを基に決定されている。

本研究では、上下骨形成術後鎮静が行われた症例に関して、患者の全体的背景、使用された鎮静薬と投与量、投与中エピソードの有無、バイタルサインなどについて、診療録および麻酔記録を基に検討し、個々の患者状態に適した鎮静薬の選択と安全で患者満足度の高い投与量の基準を設定することを目的とする。

意義：現在、手術中の鎮静を目的とした各種鎮静薬使用については、様々な文献から明らかにされている。しかし上下顎骨形成術後の気管チューブ挿入中の鎮静を目的とした鎮静については、使用薬物の選択、投与量の決定などに関する明確な指標は設けられていない。本研究によって、患者背景や各鎮静薬物の特徴を考慮した術後鎮静薬の選択および安全な投与方法に関する基準を設けることができれば、より患者満足度の高い周術期管理にとって極めて有用な指標となるものと考ええる。

### 3. 方法

2007年1月から2017年9月までの63例から

- ・過去の症例から術後鎮静症例を抽出する。
- ・カルテ、術後鎮静記録から解析項目を摘録する。
- ・使用された鎮静薬と投与量、投与中エピソードの有無、バイタルサインなどについて、診療録および麻酔記録を基に検討する。

### 4. 研究に利用する試料・情報等

試料：なし

情報：年齢、性別、常用薬名、既往歴。麻酔記録より手術時間、麻酔時間、出血量、血圧、脈拍、動脈血酸素飽和度。術後鎮静記録より鎮静度、血圧、BIS値、体動、副作用の有無、合併症の有無

## 5. お問い合わせ先

本研究は、倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした情報等には匿名化処理を行い安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。研究の詳細をお知りになりたい場合は、下記までお問い合わせください。他の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書等を閲覧することが出来ます。

なお、研究対象者に該当すると思われる方で、ご自身の情報を「この研究で利用して欲しくない」と思われた場合にも、その旨をご連絡下さい。ご了承いただけない場合には研究対象といたしません。また、その場合でもご自身に不利益が生じることはありません。

### <問い合わせ先>

研究責任者：日本大学松戸歯学部・歯科麻酔学講座・助教・鈴木 正敏

電話番号： 047 - 360 - 9439

-----以上